

令和2年度教育事業 イングリッシュキャンプ in 曾爾

1. ねらい

- ・英語でのコミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ・活動を通して、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
- ・日本語との表現の違いや英語による表現の面白さや豊かさを知る。

2. 実施日

令和3年2月27日(土) 日帰り

3. 対象者

小学校5、6年生
中学校1、2年生

4. 参加者 / 募集定員

7名 / 25名

5. プログラム (要約)

国際交流と異文化理解をテーマに、屋内外にて様々な英語に触れることができる活動を実施した。外国の通貨に触れる機会として買い物体験、曾爾高原にある物や身近にある物の英語名を知り、英語に親しみを持つための屋内外でのウォークラリー、異文化に触れる機会として講師の講話、英作文と発表の場としての英語を用いた地域紹介の活動を取り入れ、1日を通して「見る」、「聞く」、「書く」、「話す」すべてを体験できるよう工夫した。

6. 講師

トリン・マクレラン (御杖村 ALT)
ディア・ジャファー (櫃原市 ALT)

7. 当日の様子

2月27日(土)

「オープニングセレモニー」

「ドルを使って買い物しよう」

(昼食)

「イングリッシュウォークラリー」

「ゲストの国の話を聞こう」

「自分の地域を英語で自慢しよう」

「クロージングセレモニー」

オープニングセレモニーでは、主催者挨拶、スタッフ紹介の後、アイスブレイクとして「英語でネームトス」、「Torin says」を行った。ネームトスを行うことでお互いの名前を知り、Torin says で講師

と打ち解けることができた。

午前の活動として、\$ (ドル) と¢ (セント) を用いた買い物活動を行った。参加者はグループを作り、それぞれ出題された料理の材料を買いに行く。参加者は値段を英語で尋ねるとともに、店員(講師)から値段を聞き取ることで食材を手に入れることができ、楽しみながら活動することができた。



午後は、最初に屋外に出てウォークラリーを行った。曾爾高原を主としたフィールドをまわりながら、各所に設定された課題を講師に質問しながらクリアするプログラムである。参加者たちは、事前に配付された「使ってみよう! 便利なフレーズ集」を上手く使いながら、「How do you say 曾爾高原 in English?」などと尋ね、曾爾や身近にある様々な物を英語に訳していた。また、外国の外遊びを講師に教えてもらう活動では、日本にも同様の遊び(だるまさんがころんだ)があることから、親しみを感じることができたようである。その後、館内ウォークラリーも実施した。こちらも身近な物や生き物の英語名を知ることができるようになっており、「へえ、トンボって dragon fly なのか」といった声が聞かれた。

後半は、まず2人の講師からそれぞれの国についての話を聞いた。講師たちは時に参加者たちに問いかけたりしながら、自国の名所や食べ物などについて紹介し、参加者たちはたくさんの異国の写真に見入っていた。その後、参加者は自分が住んでいる地域を英語で紹介する活動を行った。講師による自国の紹介や、用意された定型文を参考にしながら自分の住む地域について紹介する文章を書き、最後に一人ずつ発表を行った。



8. まとめ

今回の事業の参加者は、英会話教室に通っている者も多く、英語を用いた体験活動に意欲的に取り組む姿がよく見られた。アンケートでは、「将来、外国に行ったり外国語を話したりできるようになりたい」という意見も多く、異文化に関する興味関心や、外の世界に目を向ける意識の高まりを感じることができた。(企画指導専門職 山内康平)